

■外部評価事前質問シート(7月5日(火)開催分)

No	施策番号	質問事項	回答
1	施策1	(取組方針2)水辺と緑のネットワークの形成に関連し、江東区は「ポケットエコスペース」というユニークな取り組みをされています。江東区環境基本計画によると、平成30年度(2018年度)現在53か所が整備されている、とあります。直近の数字と、その内訳(小中学校、公園、事業所など)を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・50か所 (内訳)幼稚園 1か所/小学校 34か所/義務教育学校 1か所/公園 13か所(うち2か所閉鎖中)/事業所(えこっくる江東) 1か所
2	施策1	同じ「江東区環境基本計画」の49ページに、「新砂干潟」が紹介されています。環境教育の場として活用されているようですが、その活用状況について教えてください。(年何回、これこれのイベントを開催など)。また、ここは国土交通省が造成した人工干潟とのことですが、干潟の管理者は国土交通省ですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習情報館(えこっくる江東)が、新砂干潟の環境学習講座を年2~3回実施しています。令和3年度は、新型コロナウイルスの影響で1回でした。講座内容は、区民を対象に、干潟についての講義後に貸切バスで移動し、野鳥や魚、カニなどの観察と環境保全活動をしています。 ・干潟の管理者は国土交通省(荒川下流河川事務所)となります。
3	施策1	ポケットエコスペース(ビオトープ)も、人工干潟も、大きなカテゴリーの「自然環境復元」に入る取り組みです。江東区内では、このほか、「自然環境復元」の取り組みはありますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化指導の際の植栽種の検討にあたって、在来種を選定してもらうようにおすすめています。 ・「田んぼの学校」と称して、横十間川親水公園内の一部で無農薬、無動力による稲作体験を実施しています。 ・東京都では、海上公園に整備にあたって、海浜や樹林地などの自然環境を回復させる計画があります。 ・「フジクラ木場千年の森」や「清水建設再生の杜」など、区内企業による自然環境復元への取り組みが行われており、「江東区みどりの基本計画推進会議部会」の活動などを通じて現地視察や情報交換等を行っています。
4	施策1	指標が区民の満足度のみになっているが、基本計画p14記載の緑被率も指標として取り上げるほうがよいのではないのでしょうか？	<p>緑被率を掲載することは可能です。ただし、5年ごとに調査を実施しているため、長期計画の毎年度の指標にすることが、評価するための材料に資するかは検討する必要があると思います。</p>
5	施策1	取り組み方針1の記載文や、基本計画p27、他に、「質の向上」「質の高いみどり」「質の高い緑化」とありますが、これらの「質」とは、具体的に何を指していますか？機能ですか？向上とは、具体的にどのような変化を指していますか？「みどり」と「緑(化)」では定義が異なるので、それぞれが指す「質」について、具体的に内容・観察測定方法等、可能な範囲で教えてください頂けますか？	<p>「みどり」の質については、基本計画P9に記載している8つの機能を十分に発揮できているかということ指します。例として、「環境」で言えばヒートアイランド現象の緩和などが十分に図られているか、「コミュニティ形成」では、コミュニティガーデン活動が活発に行われているかなどを示すものです。</p> <p>緑量が豊富に確保されているかという緑被率調査やコミュニティガーデンの活動団体数等で測定しています。</p> <p>「緑」の質については、緑化指導に基づき植栽した樹木が枯れてしまっているようなことも散見されることから、しっかり生育させること、また、樹種の選定などにあたっては、生物多様性などにも配慮しながら行うことを指し、完了検査の際に確認をしています。</p>
6	施策1	「緑化」の効果としては、二酸化炭素の固定量等は算出していますか？(施策2につながる話ですが)算出している場合、樹木と草本類とでは、固定量が異なり、樹木を面として保存する効果は高いとおもいますが、開発であっても樹木は保存する行政の取り組みはありますか？	<p>固定量については、緑化面積に対するCo2削減量という形で環境基本計画に掲載されております。詳細の算定にあたっては、樹木ごとの乾燥重量等が必要になりますので、あくまで参考数値になります。</p> <p>保存については、開発時に樹木を伐採する場合は届出をしてもらいますが、保存を強制する権限はありません。ただし、開発に伴う緑化指導は行いますので、基準に従って緑化はされることとなります。</p>

No	施策番号	質問事項	回答
7	施策1	緑化率と緑視率について、目標達成基準では、まずは緑化率を基本としていると思いますが、基本計画のp17緑被率とp18緑視率について、深川北部毛利・住吉地区において、緑被率は30%以上だが緑視率が10%未満であることは、ということが理由・背景としてありますか？緑視率は、緑化推進の政策の中で、どれくらい重視しているのでしょうか？あくまで参考情報でしょうか？	ご指摘の地域の現状分析ですが、緑被率については、都立猿江恩賜公園があることから、上空から見た際に多くの部分が緑でカバーされており、数値が高くなっています。緑視率については、交差点から見た風景の中にどの程度緑が含まれているかという指標になるものですが、住宅地という特徴から数値は上がらないと認識しています。
8	施策1	水と緑に満足している区民の割合は約74%と高いものの、基本計画p27(3)には、「みどりの量は増加している一方、それが区民に十分に実感されていない」との記載があります。「みどり」は「緑」ではなく、文化的機能も含むものとして表現されていますが、面としての「緑」ではなく、文化社会的活動としての「みどり」が認知されていない背景にはどのような経緯がありますか？	みどりには8つの機能があり、環境や景観としての機能の他に、子育て、防災など、「緑」としての機能だけではない、空間や環境を含めた機能も位置づけています。基本計画P37の目標値の項目では、「みどりがあることで子育てしやすいと思う区民の割合」と「みどりがあることで災害時の安全性が感じられる区民の割合」が半数を切っていることから、「緑」としての認知度は高いものの、その他の子育てや防災に活かすためのみどりの実感が少ない傾向にあると考えています。
9	施策1	取り組み方針2の散歩歩道整備率の事業は事業完了年度はいつを予定していますか？それによって、緑被率はどれくらい増加する見込みでしょうか？	江東区長期計画策定時の整備対象延長は33,115mとしており、現在の進捗率は59.7%です。 散歩道整備事業については東京都による護岸工事が完了した後に本区で散歩道の整備を行うものであり、現時点で東京都による護岸整備は完了していません。そのため、散歩道整備事業の完了年度は、未確定となっております。引き続き、東京都と連携して護岸工事進捗に合わせて、散歩道整備事業を進めていきます。 また、仮に未整備の散歩道を整備した場合、増加緑被率は水辺の散歩道0.0137%・潮風散歩道0.0313%となります。
10	施策1	Park-PFIについて、サウンディング型市場調査はどのような経緯や結果になっていますか？	平成2年の開園から30年以上が経過し施設の老朽化が進んでいる若洲公園において、公園の魅力向上を目的として、公募設置管理制度(Park-PFI)の活用を目指しています。若洲公園においてどのような民間投資の可能性があるのかを把握するため、令和3年度にサウンディング型市場調査を実施しました。 結果としては、都心部に近いことで、キャンプ場やイベント広場としては立地優位性が高く、更なる拡充の余地がある一方で、駅から遠く地域住民がいないことにより飲食店の独立採算化は困難であるといった意見が得られています。
11	施策1	砂町魚釣場跡地の区民農園の整備によって、どれくらいの緑被率が増える見込みでしょうか？	区民農園整備により新たに緑被地として創出される面積(農地)は、1区画当たり10㎡×150区画=1,500㎡=0.15haであり、区民農園整備により増加する緑被率は0.0035%となります。

■外部評価事前質問シート(7月5日(火)開催分)

No	施策番号	質問事項	回答
1	施策2	<p>(取組方針2)中、指標で上がっている風力発電設備、太陽光発電施設、雨水利用施設の施設の種類(小学校、区民センターなどといったカテゴリー別)、設備容量、実際の発電量、雨水利用量、それぞれどのように使っているか(例えば、通常は玄関の電気に、災害時には、携帯電話充電用に、など)を教えてください。</p> <p>また、地球温暖化防止設備導入助成申請件数は増加していますが、申請者の内訳(例えば民間企業とか、個人とか)、どういった設備か(屋根置き太陽光パネルなど)を詳しく教えてください。対象設備は現在、何種類ですか。種類の数および助成総額を増やす予定はありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の種類、容量については、別紙1のとおりです。 ・発電量については、別紙2のとおりです。 ・使用については、風力発電においては、若洲風力発電施設では公園内の街灯等に利用し余剰分を売電、環境学習情報館では建物の主体である清掃事務所の照明など自家消費、太陽光発電においては、施設での照明やモニターでの発電量の表示など自家消費、雨水利用においては、別紙1のとおりです。 ・雨水利用施設の実使用量は不明です。 ・地球温暖化防止設備導入助成申請件数における内訳と種類は、別紙3のとおりです。 ・種類の数および助成総額については、検討中です。
2	施策2	<p>建物の断熱改修は、温室効果ガス排出削減への効果+住んでいる人の健康増進など大きな効果があります。既設の個人住宅、あるいは病院、福祉施設、公的な集合住宅などを対象に、区として促進の施策はありますか(高断熱窓の助成以外にありますか)</p>	<p>地球温暖化防止設備導入助成事業において、個人住宅・事業所向けの高反射率塗装が該当します。</p>
3	施策2	<p>若洲風力発電施設、マイクロ水力発電それぞれについて、運用状況、発電量、起こした電気をどうしているか、など概要を教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若洲風力発電施設については、東京湾に吹く海風で運用、発電量他は別紙2のとおりです。 ・マイクロ水力発電施設については、横十間川から小名木川への約1mほどの落差を利用して運用、発電量は別紙2のとおりです。発電した電気は、モニター表示や周辺のLED照明に利用しています。
4	施策2	<p>環境基本計画(後期)の22ページに、「分散型エネルギーシステムの構築を目指す」とあります。全国の中には、地域新電力を設立したり、自営線を張ることによる「自律分散システム」を実現している区域を作ったりの例があります。江東区が「目指している」のは、どのようなものでしょうか。また、それに向けての現状は?</p>	<p>平成23年度に「豊洲グリーン・エコアイランド構想」を策定し、開発等において、再生可能エネルギーなどの最先端技術を生かした取組を促進し、「環境に最大限配慮したまちづくり」を目指しています。</p> <p>現在、豊洲ふ頭地区の東京ガス豊洲スマートエネルギーセンターが、ガスエンジンコージェネレーションシステムやガス圧力差発電等を使用し、地域に電力等を供給しています。</p>

No	施策番号	質問事項	回答
5	施策2	東京2020大会のレガシーを継承する具体的な活動はどのようなものがありますか？2020大会での具体的な環境配慮の先進的事例や効果についてどのような総括がなされていて、それをどう区内で還元し普及していくのか、両方をつなぐ形で事業が予定されているのでしょうか？	具体的な活動としては、新築マンション駐車場への電気自動車等の充電設備設置の促進、庁有車の低公害車導入、公共建築物の新築・改築時における木材利用などがあげられます。大会の総括ですが、先進的な事例や効果を参考にして、環境基本計画の改定時に取り入れており、「水と緑豊かな地域環境にやさしいまち」の実現に向け、それを地球温暖化・エネルギー対策の推進ほか6本の柱に位置づけ、再エネ・省エネ機器等の利用促進などの具体的な取り組みとして推進しています。
6	施策2	取り組み方針2において、再エネ設備を区施設に積極的に導入するとのことですが、これまでに一定数の設置が進んでいます。その経緯で、太陽光パネルの反射光による近隣地区への光害や、風力発電の低周波による騒音などの問題はありましたか？これまで導入した施設の発電出力や、1日あたりの消費電力に対する効果(光熱費削減額等、自家消費にしているのか、売電しているのか等)はどれくらいありましたか？そもそも公共施設への敷設効果について施設数を増やす以外に省エネに関する数値的な目標や政策背景にはどのようなことがありましたか？	光害や騒音につき、苦情は寄せられていません。令和2年度における総出力数は2,133.9kwで、うち風力発電1,950.0kwは照明などの自家消費と売電です。省エネに関する数値的な目標としては、太陽光発電システム等の助成件数を環境基本計画で指標としています。背景としては、国や都の新たな温室効果ガス削減目標の設定と脱炭素社会に向けた取り組みがあげられます。
7	施策2	アダプトプログラム登録団体は、どのような団体でしょうか？団体属性の内訳や各団体の人数規模などはどのようなものでしょうか？質問9にも記載しましたが、東京2020ボランティア活動のレガシーを継承してる面がありそうですが、実態はどのようなものがありますか？	アダプトプログラムは区道、区立公園等の一定の区域を養子に見立て、里親が我が子を想うような愛情を持って定期的に清掃するボランティア活動で、区民や事業所等で、2名以上で組織されれば団体として登録できます。登録団体は、町会・自治会、地元企業、環境ボランティア団体等です。東京2020のレガシーの継承としては、現在、小中学校、学校のカヌー一部等8校の登録があり、積極的にボランティア活動を行っています。
8	施策2	全般的に、環境学習や意識啓発の効果測定は、区民アンケート以外に測定しているものはありますか？そもそも効果については、目標や政策導入時のポリシーにはどのようなものがありましたか？	その他に、カーボンマイナスこどもアクション(小学5・6年生が保護者とともに環境月間の6月の1か月間、CO2削減効果が計算できるシートへ記録、削減されたCO2量を集計)があります。ポリシーについては、環境教育及びパートナーシップの推進を掲げ、指標として講座・イベント等の開催状況などを環境基本計画で取り上げました。
9	施策2	環境配慮行動で、ごみ分別、リサイクル、マイバック持参以外には、計測しているものはありますか？区内で進めているCOOL CHOICEについて、実績や効果がわかるものがあれば、教えて頂けますか？	公共交通機関の利用、詰め替え商品の購入、リユースなどがあります。COOL CHOICEは温暖化対策であり、実績として地球温暖化防止設備導入助成件数、効果としてみんなで取り組むエコ意識に反映されます。

【様式1】

再生可能エネルギー設備導入実績 (再生可能エネルギー活用状況)

令和4年3月末現在

Table with 4 main sections: 太陽光発電 (Solar Power Generation), 雨水利用施設 (Rainwater Utilization Facilities), 風力発電施設 (Wind Power Generation Facilities), and 屋上緑化・壁面緑化 (Roof Greening/Wall Greening). Each section contains a list of facilities with columns for facility name, year, and power output/area. Summary rows at the bottom provide totals for each category.

(注) 面積は、緑化要件を満たさない部分を除く実績数値に含まない。

<再生可能エネルギー等の活用> **重点事業**

区立施設の新築・改築等の機会をとらえ、太陽光発電システムや雨水利用設備等を可能な限り設置し、CO₂排出削減と環境負荷の軽減を図ります。

また、若洲風力発電設備やマイクロ水力発電設備等を活用し、区民の再生可能エネルギーについての知識の醸成を図ります。

No	管理指標		単位	基準値		実績値		目標値
				数値	年度	令和元年度	令和2年度	令和6年度
⑩	再生可能エネルギー設備を導入した区施設数	風力・水力発電	施設	3	H30	3	3	3
		太陽光発電	施設	15	H30	16	16	19
		雨水利用	施設	55	H30	56	56	58

*番号が○印で囲まれた管理指標の実績は累計

● 設備容量と発電実績

令和2年度末現在、風力発電2施設、水力発電1施設、太陽光発電16施設、計19施設へ再生可能エネルギー設備を導入しています。風力・水力発電は目標値を達成しており、太陽光発電については、目標値の達成に向け、計画的に導入を進めていきます。

本区再生可能エネルギー発電設備の内訳と実績（令和2年度）

導入年度	施設名*1	出力	発電量*2	CO ₂ 削減効果	測定器故障による計測不能期間	
1	H15 若洲風力発電施設	1,950.0 kW	1,624,577 kWh	718,063 kg-CO ₂	-	
2	H18 環境学習情報館	0.3 kW	☆ kWh	-	-	
風力小計		施設数：2	1,950.3 kW	1,624,577 kWh	718,063 kg-CO ₂	-
1	H27 マイクロ水力発電施設	1.0 kW	3,428 kWh	1,515 kg-CO ₂	-	
水力小計		施設数：1	1.0 kW	3,428 kWh	1,515 kg-CO ₂	-
1	H17 防災センター	5.0 kW	5,186 kWh	2,292 kg-CO ₂	-	
2	H18 環境学習情報館	25.0 kW	4,312 kWh	1,906 kg-CO ₂	令和2年4月～10月	
3	H19 深川第三中学校*	27.5 kW	-	-	令和元年5月～令和3年3月	
4	H20 大島南央小学校*	20.0 kW	20,786 kWh	873 kg-CO ₂	-	
5	H21 第五砂町小学校*	20.0 kW	22,687 kWh	953 kg-CO ₂	令和2年8月・10月	
6	H21 塩浜保育園	0.0388 kW	☆ kWh	-	-	
7	H22 有明小・中学校*	3.7 kW	3,572 kWh	150 kg-CO ₂	-	
8	H23 東川小学校*	10.0 kW	8,029 kWh	337 kg-CO ₂	令和2年11月～令和3年3月	
9	H23 塩崎保育園	0.084 kW	☆ kWh	-	-	
10	H25 第二亀戸中学校*	10.0 kW	11,913 kWh	500 kg-CO ₂	令和2年12月	
11	H26 豊洲西小学校*	10.0 kW	12,483 kWh	524 kg-CO ₂	-	
12	H27 豊洲シビックセンター	15.2 kW	13,960 kWh	6,171 kg-CO ₂	-	
13	H27 第二亀戸小学校*	10.0 kW	-	-	令和元年10月～令和3年3月	
14	H29 有明西学園*	10.0 kW	12,493 kWh	525 kg-CO ₂	-	
15	H30 第五大島小学校*	10.0 kW	8,532 kWh	358 kg-CO ₂	-	
16	R1 香取小学校*	6.1 kW	7,158 kWh	300 kg-CO ₂	-	
太陽光小計		施設数：16	182.6 kW	131,111 kWh	14,889 kg-CO ₂	-
合計		施設数：19	2,133.9 kW	1,759,116 kWh	734,467 kg-CO ₂	-

1 CO₂削減効果につき、東京電力の令和元年度実績 調整後排出係数 [0.442kg-CO₂/kWh] より試算。ただし、「」の施設については、東京エコサービス㈱と契約しているため、令和元年度実績 調整後排出係数 [0.042kg-CO₂/kWh] より試算。

*2 発電量「☆」の施設は、設備出力が小さく、計量実績なし

地球温暖化防止設備導入助成事業 令和3年度実績助成件数

No.	対象設備	個人住宅	集合住宅	事業者	計
1	太陽光発電システム	24	0	2	26
2	CO2冷媒ヒートポンプ (エコキュート)	16		0	16
3	燃料電池装置 (エネファーム)	29		0	29
4	エネルギー管理 システム機器	14	0	0	14
5	高反射率塗装	63	9	2	74
6	蓄電池	26	0	1	27
7	高断熱窓	79	2	0	81
8	LED照明		22	4	26
9	次世代自動車				133
	計	251	33	9	426